



**地域アートプロジェクト(2)**

第9回は、アーツ前橋の地域アートプロジェクトを紹介します。

地域アートプロジェクトとは、アーティストや地域の人たちと共に、館外で行う事業です。現在も、開館記念展に合わせて、さまざまな事業を開催しています。

「衣」をテーマにしたきぬプロジェクトは、不要になった衣服を、その衣服に対する思い出とともに集めています。集まった衣服はアーツ前橋のユニホームの素材となり、さまざまな人の思いが詰まったユニホームが生まれます。「食」をテーマにしたダイニングプ

# アーツ前橋探検

vol.9



ロジエクトでは、日常的に食べている家庭料理をリサーチし、レシピ本を作ること、現在の人やまちを記録・保存し、未来に伝えていきます。

「住」をテーマにしたマチリアルプロジェクトでは、昨年閉店した旧磯部湯(千代田町一丁目)を使って、2人の作家が約2カ月間前橋に滞在し制作した作品を展示しています。これは、使われなくなってしまう場所を文化で活用しようという試みです。また、市民団体が自由に使うことができる「アーツ桑町」では、トークイベントや展覧会などを開催しています。

前橋中心商店街の各通りには、アーツ前橋の開館記念展に出品しているアーティストがデザインしたフラッグが街を彩っています。これらの地域アートプロジェクトは、直接アーティストと交流し、さまざまな参加者が協力しながら、継続して実施していきます。ぜひ、まちを歩きながら地域アートプロジェクトを体験してみてください。

問い合わせは  
アーツ前橋 ☎027-2300-1144

全国学生英語プレゼンテーションコンテストで、文部科学大臣賞を受賞した。同コンテストは英語の語学力と表現力を競うもの。個人・グループの2部門、371人の中から一次・二次予選を勝ち抜いての最高賞だ。

「プレゼンテーション大会への参加自体が初めてで、まさか自分が本選まで残れるとは思いませんでした」

本市で生まれ育ち、地元に着着を感じていることから、米国ニューヨークにアンテナショップを作り、観光をPRするというテーマを選んだ。

「身近なものがテーマの方が、相手に伝えやすいと思ったんです。前橋は公園があったり、自然が豊かだったりして落ち着けるまち。焼きまんじゅうなどPRできるものもたくさんあります」

## 語学力磨き世界の橋渡し役へ



全国学生英語プレゼンテーションコンテストで文部科学大臣賞  
金澤 小夢紀さん 21歳

英語に特別な思い入れはなかったが、中3のときに市の海外派遣事業でオーストラリアを訪問したのが転機になった。「伝えたいことをうまく伝えられなかったんです。その歯がゆさが英語を学ぶきっかけに。母国語が違っても、多くの国の人たちと交流できるのが英語の魅力ですね」

県立女子大の3年生で英語コミュニケーション課程を専攻。将来は英語を生かした仕事に就きたいと思っている。「日本のものを輸出したり、海外のお菓子などを輸入したり。日本と海外の橋渡しができればうれしいです」

謙遜しながらも、その目はしっかりと世界を見据えていた。身に付けた表現力を武器に、今後は世界を舞台に活躍してほしい。



### 東国文化の歴史に触れる

11月24日、大室公園で大室古墳フェスタを開催しました。各種体験コーナーやステージイベントなどで、群馬県が東国文化の中心であったことを広くPR。古事記を基に制作したオリジナル創作劇を大室小の児童らが演じると、大きな拍手が湧き起こりました。



### 世界的な演奏を目の前で体験

11月24日、バイオリン奏者のトーマス・フォードロフさんを招き、児童文化センターで特別公開レッスンを開催。同館ジュニアオーケストラ団員への演奏指導が行われた後、トーマスさんが演奏を披露。世界的な演奏の腕前に、会場中が魅了されていました。



### みんな応援ありがとう！

11月25日、市役所1階市民ロビーで「TONTONのまち前橋」のマスコットキャラクターころとんの「ゆるキャラグランプリ(R)2013」投票結果報告会を開催。1,580体中の38位と大躍進を遂げたころとんを、第四保育所の園児が歌や踊りでお祝いしてくれました。



### ICTの取り組みを発表

11月19日から21日に、フランス・パリ市で、国際的なICカードの展示会「CARTES 2013」が開かれました。世界の企業や研究者たちが集う場で、本市が進める「前橋ICTしるくプロジェクト」の取り組みを発表。世界に向けて本市をPRしました。